

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第100集

野沢館跡Ⅲ

NOZAWAKANSEKI

長野県佐久市大字原字屋敷
野沢館跡Ⅲ発掘調査報告書

2002.3

野澤 潤子

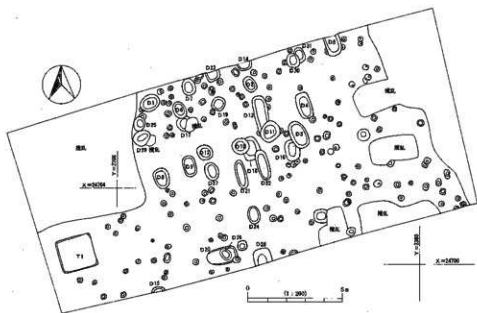
長野県佐久市教育委員会

野沢館跡Ⅲ

NOZAWAKANSEKI

長野県佐久市大字原字屋敷

野沢館跡Ⅲ発掘調査報告書



野沢館跡Ⅲ遺構全体図

2002.3

野澤 潤子

長野県佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成13年に調査した長野県佐久市大字原字屋敷に所在する野沢館跡Ⅲの調査報告書である。

遺跡名	野沢館跡Ⅲ
遺跡略称	NNZⅢ
所在地	長野県佐久市大字原字屋敷466-1、4802番地
調査面積	1176.69㎡ 中建物部分約250㎡
調査期間	平成13年10月25日から平成14年3月29日
開発主体者	野澤調子氏
開発事業名	集合住宅建設
- 2 本調査は、野澤調子氏の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、羽毛田卓也を担当者とし、地元の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
- 4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 5 本書の執筆・編集は、羽毛田卓也が担当した。

凡 例

- 1 遺跡の略称 NNZⅢ
- 2 遺構・遺物の縮尺は図中にスケールを付したので参照されたい。
- 3 表中の番号（例12-3）は挿図番号（例第12図3番）と対応する。
- 4 遺物の番号は金属製品・陶磁器等・その他の遺物について各々の通し番号である。
- 5 土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修1987年度版「新版標準土色帖」の表示に基づいた。
- 6 写真図版中の遺物の縮尺はそのつど明記した。明記のないものは任意の縮尺である。
- 7 挿図中の記号「s」は石を、「t」は木材・炭化材を表す。
- 8 遺構図・全体図などの記号「D」は土坑、「T」は特殊遺構、「P」は柱穴址を表す。
- 9 挿図中、遺構の土層切断図中の数値は標高である。

目次

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	3
3 調査の体制	3
4 調査日誌	3
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4
1 遺跡の自然的環境	4
2 遺跡の歴史的環境	5
第Ⅲ章 基本層序	9
第Ⅳ章 遺構と遺物	9
第Ⅴ章 まとめ	18
写真図版	19

第I章 発掘調査の経緯

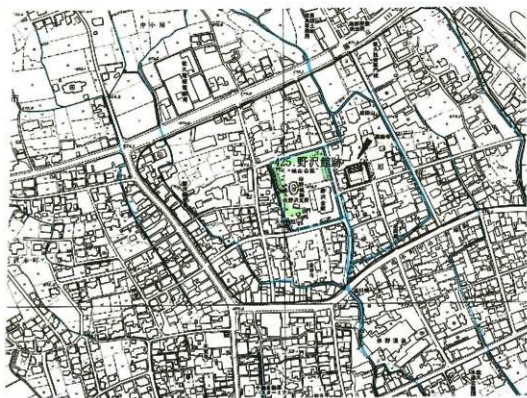
1 調査に至る動機

野沢館跡は、佐久市大字野沢・原に所在し、千曲川西側に広がる河岸低段丘上、標高675m内外に展開する平安時代末期から中世の居館址である。本館跡は平成3年に試掘調査され、中世の土坑・柱穴址・石組遺構などが検出されている。また対象地北側では平成11年度に薬師寺遺跡が調査され、近世の寺院と中世の園池が検出されている。対象地は本館跡の中央東よりの標高673m内外を測る千曲川により形成された低段丘東端に位置する。

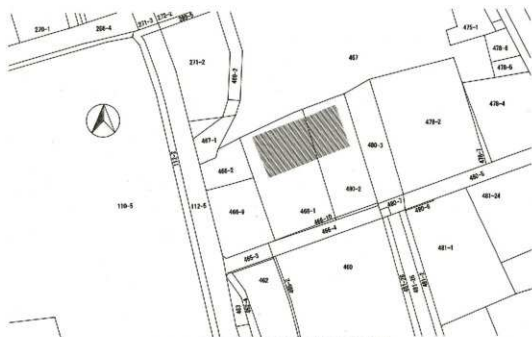
今回、野澤調子氏が行う集合住宅建設に伴い、佐久市教育委員会との協議の結果、試掘調査により遺構の確認作業を行うこととなった。試掘調査により対象地全体に中世から近世にかけての遺構と遺物包含層が広がっていることが判明し、再度両者で協議を行った。その結果、建物の基礎工事により破壊される部分を、野澤調子氏より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査し、駐車場部分については保存する運びとなった。



第1図 野沢館跡位置図 (1:50,000)



第2図 野沢留跡位置図 (1:5,000) ※水色は現在の水路・緑色は現存する土塁



第3図 調査地周辺地勢図・調査区設定位置図 (1:1,000)

2 調査の概要

平成13年度 試掘調査		
対象面積	1,176.69㎡	
調査期間	平成13年10月15・16日	
検出遺構	中世～近世の土坑・柱穴址など	
平成13年度 本調査		
調査面積	約250㎡	
調査期間	平成13年10月25日から11月9日	
調査遺構	中世から近世の土坑	31基
	中世から近世の柱穴址	152基
	近代の特殊遺構	1基
平成13年度 整理調査	平成13年11月12日から平成14年3月29日	

3 調査の体制

事務局 (平成13年度)	佐久市教育委員会文化財課
教育長	依田英夫 (6月退任) 高柳勉 (7月就任)
教育次長	小林宏造 (5月退任) 黒沢俊彦 (5月就任)
文化財課長	草間芳行
文化財係長	萩原一馬 (5月退任) 森角吉晴 (5月就任)
埋蔵文化財係	林幸彦、須藤隆司、小林眞寿、羽毛田卓也 富沢一明、上原学、山本秀典、出澤力
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査員	荒井ふみ子、岩崎重子、柏木義男、佐藤志げ子 佐藤剛、須藤瑞穂、副島充子、田中章雄、花岡美津子

4 調査日誌

平成13年10月15・16日	試掘調査
平成13年10月19日	保護協議
平成13年10月25日～	調査区設定、機器材搬入、調査諸準備
平成13年10月26日～	表土除去作業、遺構プラン確認作業

平成13年10月29日～

遺構掘下げ作業開始 土層断面図実測作業開始

平成13年10月30日～

平面図実測作業開始 遺構写真撮影開始 基準杭設置作業

平成13年11月7日

全体地形測量 全体写真撮影 機器材の搬出 周辺踏査

平成13年11月8日

調査区埋め戻し作業

平成13年11月9日～平成14年3月29日

土器・石器等水洗および遺物の注記 実測図面の修正 遺構第2原因作成

土器の復元、石器・土器の実測 遺物図面の修正 遺物第2原因作成

遺構・遺物のトレース 版下作成 遺物の写真撮影

野沢城踏査作業 本文の原稿執筆および編集作業 校正

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北に浅間山を主とする三国山脈の南端峰群、東から南に関東山地から連なる山々である佐久山地、西から南方に八ヶ岳連峰と、四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置する。佐久平全域の標高は約600mから1000mを測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は620mから770mを測る。また北側で軽井沢町・御代田町・小諸市と、西側で浅科村・望月町と、南側で茅野市・佐久町・白田町と、東側で群馬県下仁田町・南牧村と接している。

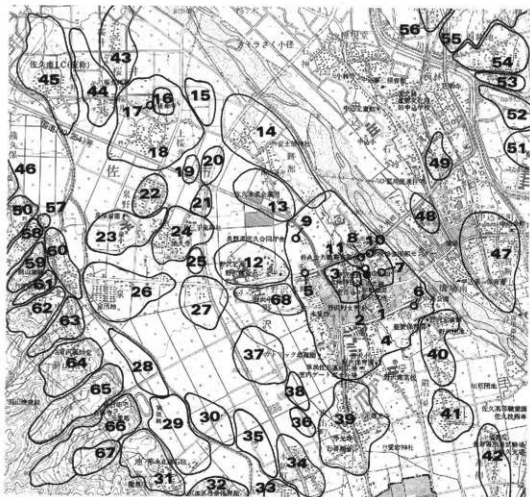
佐久市の中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山に源を発する湯川・湯川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・清澤川・田子川・瀬原川・八重久保川、八ヶ岳に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘を形成している。佐久山地の八風山や寄石山・物見山・兜岩山・熊倉峰・荒船山は、石英安山岩類や溶結凝灰岩類・ガラス質の荒船安山岩類により形成されている。これらの山の基盤には第三紀層・中生層や古生層が広がっているとされている。貝化石を産出することで知られる内山の初谷層（白重紀）は中生層で内山層（漸新世末～中新世初頭）は第三紀層である。また昆虫や植物化石を産出する志賀の兜岩層（淡水湖底堆積層）・貝化石を産出する駒込層（グリーンタフ）や八重久保層なども第三紀層である。

佐久平の北側は、浅間山第1軽石流等の火山噴出物によって厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。一方南側は、断層に沿って北進する千曲川により形成された段丘と帯状低地の交互地形が形成されている。浅間山は、野沢館が戦乱に巻き込まれていた16世紀に度々噴火を繰り返している。1518年・1527年・1528年・1532年・1590年・1591年と小規模噴火を繰り返し、1596年4月に大噴火を起こし死者多数を出している。さらに同年7月に再び大噴火を起こした後沈静化している。今回調査した野沢館Ⅲは、佐久市南側、千曲川西側の第2河岸段丘上面に展開している。

2 遺跡の歴史的環境

今回調査した野沢館跡Ⅱの周辺には、弥生時代から近世にかけての遺跡や遺跡群が、千曲川や片貝川によって形成された带状の微高地に点在している。

本館跡と関係の深い中世遺跡は前山城（第4図59番）と荒山城（4-32）・荒城（4-67）で、前山城は野沢館を整備・改築したとされる小笠原（伴野）時長の子で跡部にいた伴野長朝が築城したとされているが、中世戦乱期とかなり時間差があり、当時山城を築造する必要はまったくないため、長朝築城は疑問視される。前山城は、他の佐久市内の中世山城同様に、15～16世紀頃の築城で、戦時に備えた野沢館の出城と考えられる。また荒山城と荒城は武田信玄の佐久侵攻に備え、伴野長朝の末裔である伴野貞祥・貞慶らが1500年代始め（永正年間）に、前山城の支城として築いたと考えられる。他周辺の各遺跡および時代等の詳細は第4図と第1表を参照されたい。



第4図 周辺遺跡分布図（1：25,000）

第1表 周辺遺跡一覧表（番号は第4図と対応する）

No.	遺跡名	時代	所在地	備考
1	野沢館跡Ⅱ	中世・近世	原	今回調査
2	野沢館土郭	平安～中世	野沢	長野県史跡『伴野城跡』

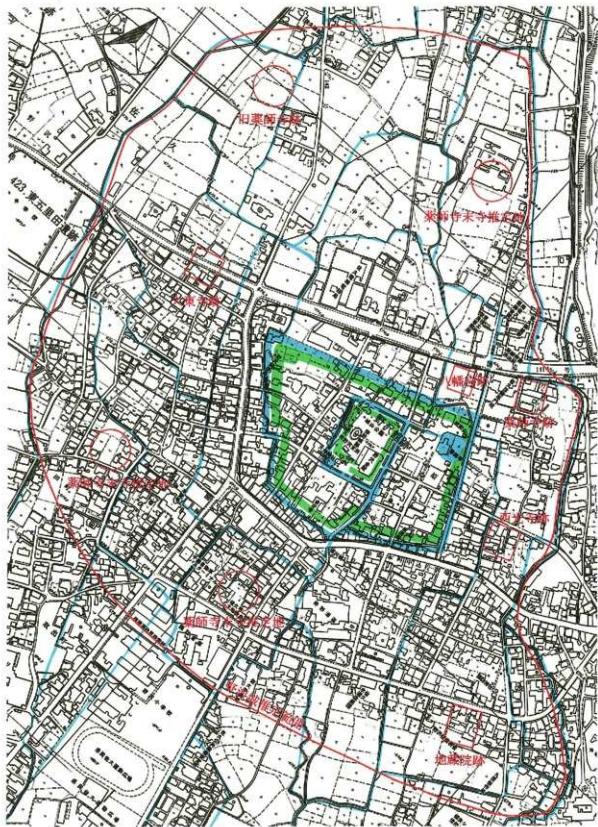
No	遺跡名	時代	所在地	備考
3	野沢館跡	平安～中世	野沢・原	
4	野沢城跡	中世	野沢・原	
5	大東寺跡	中世	野沢	薬師寺末寺
6	地蔵院跡	中世	原	薬師寺末寺
7	西光寺跡	中世	原	薬師寺末寺
8	八幡宮跡	中世	原	
9	薬師寺跡	古代・中世	野沢	
10	薬師寺跡	中世～近世	原	
11	薬師寺遺跡	中世・近世	原	平成11年度調査、現薬師寺
12	長明塚遺跡	古墳～奈良	野沢	新沢遺跡 (S62)
13	金山遺跡	古墳～平安	跡部	
14	跡部徳田遺跡群	古墳～平安	跡部	跡部徳田遺跡 (H11)
15	上板井北遺跡	古墳～平安	板井	上板井北遺跡 (S52)
16	泉原教跡	中世	板井	
17	平馬塚古墳	古墳	板井	
18	平馬塚遺跡群	縄文・古墳～平安	板井	
19	三塚町田遺跡	古墳	三塚	三塚町田遺跡 (S49)
20	跡部町田遺跡	古墳	跡部	跡部町田遺跡 (S50)
21	市道遺跡	古墳～平安	三塚	市道遺跡 (S49)、市道遺跡Ⅱ (H10)
22	三塚鶴田遺跡	平安	三塚	三塚鶴田遺跡 (S50)
23	一町田遺跡	縄文～平安	三塚	泉小学校敷地遺跡 (S40)
24	三千東遺跡群	古墳～平安	三塚	寺添遺跡 (H6)、宮添遺跡 (H11)
25	三塚三塚遺跡	平安	野沢	三塚三塚遺跡 (S49)
26	中道遺跡	弥生・奈良～平安	前山	中道遺跡 (S46)、中道遺跡Ⅱ・Ⅲ (H9・11)
27	辻遺跡	平安	野沢	
28	大門下遺跡	弥生～平安	前山	
29	大風遺跡	縄文	前山	
30	御岳遺跡	古墳	大沢	
31	地家遺跡	縄文～中世	大沢	
32	城山遺跡 荒山城跡	縄文～中世 中世	大沢	
33	下町屋遺跡	平安～中世	大沢	
34	西浦遺跡群	縄文・古墳～平安	本新町	
35	前田遺跡	古墳	本新町・大沢	
36	高畑遺跡	古墳	本新町	
37	俣田遺跡	古墳～平安	野沢	
38	伊勢遺跡	奈良～平安	取田	
39	白納子遺跡群	奈良～平安	取田	
40	社宮司遺跡	弥生・奈良～平安	原	
41	向坂遺跡	平安	殿治屋	
42	前瀬遺跡	古墳	高柳	
43	上北谷遺跡群	弥生～平安	板井	
44	宮浦遺跡群	古墳	瀬戸	
45	北塚遺跡群	弥生～平安	瀬戸	
46	後沢遺跡	縄文～平安	小宮山	後沢遺跡 (S51・52)
47	新町遺跡	奈良・平安	中込	
48	路上遺跡	平安	中込	
49	鎮守宮遺跡	平安	中込	
50	上の山遺跡	縄文	小宮山	
51	種村遺跡群	弥生～平安	平賀	種村遺跡 (S57・58、H12)
52	上の台	弥生	平賀	上の台遺跡 (S57)
53	西原敷遺跡	平安	瀬戸	
54	東千石平遺跡群	古墳～中世	瀬戸	東千石平遺跡 (H11)
55	深堀遺跡群	弥生～中世	瀬戸	深堀遺跡 (S40)、瀬戸原遺跡群 (H10・11)
56	深堀城跡	中世	中込	
57	小宮山砦	中世	小宮山	
58	西の原遺跡	縄文～古墳	小宮山	
59	前山城跡	中世	小宮山	
60	町の後遺跡	平安・中世	前山	
61	原原敷遺跡	平安	前山	

No	遺跡名	時代	所在地	備考
62	滝の下遺跡	縄文	前山	滝の下遺跡 (H3)
63	象ヶ岡遺跡	縄文・平安	前山	
64	倉沢遺跡	平安	前山	
65	尾垂遺跡	縄文～平安・中世	前山	平成12年度試掘調査により近世寺院跡確認
66	洞原遺跡	縄文・平安	前山	
67	荒城跡	中世	前山	
68	東五里田遺跡	平安	野沢	

野沢館跡は佐久市大字野沢・原に所在する中世の居館址で、昭和40年4月30日に『伴野城跡』として長野県史跡として指定されている。この野沢館の変遷を追ってみたい。

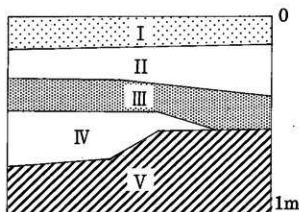
木曾義仲が滅亡後、義仲の家臣団を形成していた信濃武士団を追討し服従させるために、源頼朝は有力御家人であった甲斐源氏の加々木遠光を1185年(文治元年)に信濃国司として、比企能員を信濃目代として任命した。さらに衰退した木曾義仲佐久党が支配していた佐久には、遠光の子で甲斐の小笠原で勢力を張っていた小笠原長清を地頭職として任命した。その後伴野荘を長清の子六郎時長が、大井荘を七郎朝光が知行支配する。小笠原時長・朝光ともに知行地より伴野時長・大井朝光と名乗るようになった。野沢館の前身は平安時代末期に野沢地区で活躍した滋野系野沢氏が居住した長方形館と考えられる。その館をもとに伴野荘地頭職にあった長清・時長・時直父子孫により整備されたものと考えられる。伴野時直の子長泰の時、霜月騒動(1285年)が起こり、伴野長泰と弟泰直・長子盛時と次男長直は殺され、伴野氏は衰退し、伴野荘は一部を除き北条一族の知行地となる。その後の建武年間(1334～7年)に伴野長泰の孫長房が伴野荘地頭職として再び登場し、伴野長信・貞棟と続き、その後100年間伴野氏の居館として再び繁栄する。館は1540年に武田信虎の佐久侵攻に伴い武田氏所属となった。そして1583年依田信蕃の佐久侵攻に伴う戦いで落城後廃城となるまで、武田晴信と佐久武士団との戦いの中で廃城と再建を繰り返したと考えられる。近世初頭には仙石氏により官倉が建てられ、江戸中期には陣屋が建てられている。今回の調査対象地は、野沢館外郭の東部に位置し、主郭とはほぼ東接する。

調査地と北接する薬師寺は、奈良時代より続く寺院が、平安時代末期の1150年(久安6年)に現在の佐久濃協南側小字跡部前(第 図参照)の地に再建されたと伝わっている。佐久市内の真言宗の寺院が平安時代末に滋野系一族の活躍した地に創建されていることから、時代的には大きな間違いはないと考えられる。その後薬師寺の末寺とされる西光寺(西光寺として地名が残存)・大東寺(大道寺として地名が残存)・地藏院(地藏堂として地名が残存)・常福院・延命院・眞藏院が創建され、7堂伽藍を誇る規模の大きな寺院であったと伝わっている。この7堂が地名・地形などから鑑み、野沢館の外郭を取り巻くように配置されていたと推定される。創建と再建に関係したのは、野沢氏や阿刀部氏と考えられるが、7堂伽藍として再興したのは、時代背景や末寺6堂と主郭・外郭との位置関係などを鑑みると、当時伴野荘に地頭職として就いていた小笠原長清・伴野時長父子と考えられる。さらに1281年(弘安4年)佐久地方唯一の時宗寺院である金台寺(伴野道場)が、館の南方に創建された。現在の金台寺は江戸時代に南より移動してきたものである。武蔵国聖天社の永祿6年(1563年)の金鼓(伴野信是寄進)に野沢薬師寺の銘があることや、永祿年間に伴野氏が館の鬼門守護の祈願を八幡宮と薬師寺に行わせていることより、永祿年間には薬師寺は前述の跡部前より鬼門方向へと移動していることとなる。地形・伝承等より鑑みて、外郭の外側の現南部給食センター東側に建てられていたと推定される。八幡宮は廃社となるまで館の鬼門方向である外郭の外側の現ハローワーク付近に建てられていた。また八幡宮は残存する鯛川(伴野信是寄進)の銘に永祿12年7月信州佐久郡野沢郷八幡宮とあり当時の繁栄を物語っている。平成11年度の薬師寺遺跡の調査で、中世の野沢館期の圍池が検出されている。今回調査地は、この圍地の南側となり、中世の屋敷地が推定される場所である。



第5回 野沢城(野沢館)水路・堀・土塁等推定図(1:5,000)

第三章 基本層序

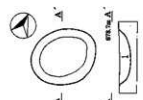


第6図 基本層序模式図

野沢館跡Ⅲは、標高674m内外を測り、全体が南西から北西方向に緩やかに傾斜する。

調査にかかわる土層は、5層に分割された。第Ⅰ層はアスファルト・砕石で、第Ⅱ層は第Ⅰ層造成時の整地・埋土層である。第Ⅲ層は、黒褐色土で、江戸時代後期以降の耕作土および表土である。第Ⅳ層は、シルト質の灰黄褐色土で、江戸時代後期以前の整地層である。本層中より、火葬人骨片と角釘等が出土した。第Ⅴ層は暗褐色シルトで、河原礫を少量含む河川影響下の堆積土である。遺構は、第Ⅴ層上面において検出した。

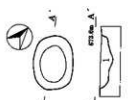
第四章 遺構と遺物



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・灰燼小片・河原小礫散在含む。10YR3/2

0 (1:100) 1m

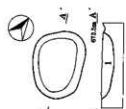
第7図 D1号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・灰燼小片・河原小礫散在含む。10YR3/2

0 (1:100) 1m

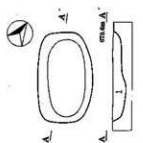
第8図 D2号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・灰燼小片・河原小礫散在含む。10YR3/2

0 (1:100) 1m

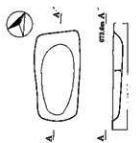
第9図 D8号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・灰燼小片・河原小礫散在含む。10YR3/2

0 (1:100) 1m

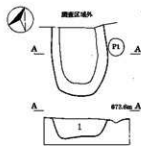
第10図 D3号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・灰燼小片・河原小礫散在含む。10YR3/2

0 (1:100) 1m

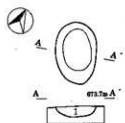
第11図 D4号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・灰燼小片・河原小礫散在含む。10YR3/2

0 (1:100) 1m

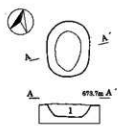
第12図 D5号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・陶器小片・河原小礫散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

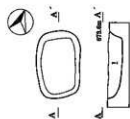
第13図 D6号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・陶器小片・河原小礫散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

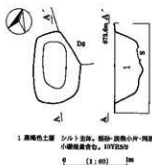
第14図 D7号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・陶器小片・河原小礫散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

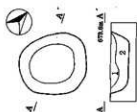
第15図 D9号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・陶器小片・河原小礫散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

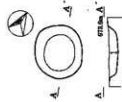
第16図 D10号土坑実測図



1 黒褐色土層 粘質シルト主体。磁器・陶器小片散見。10YR3/2
2 黒褐色土層 粘質シルト。磁器・陶器小片散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

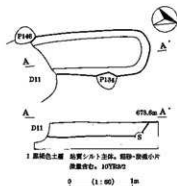
第17図 D11号土坑実測図



1 黒褐色土層 シルト主体。磁器・陶器小片・河原小礫散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

第18図 D12号土坑実測図



1 黒褐色土層 粘質シルト主体。磁器・陶器小片散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

第19図 D13号土坑実測図



1 黒褐色土層 粘質シルト主体。磁器・陶器小礫散見。10YR3/2
2 黒褐色土層 粘質シルト。磁器・陶器小礫散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

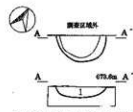
第20図 D15号土坑実測図



1 黒褐色土層 粘質シルト主体。磁器・陶器小片散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

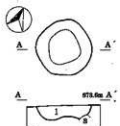
第21図 D17号土坑実測図



1 黒褐色土層 粘質シルト主体。小礫・陶器小片散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

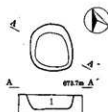
第22図 D14号土坑実測図



1 黒褐色土層 粘質シルト主体。磁器・陶器小片散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

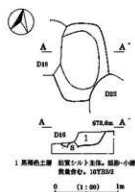
第23図 D16号土坑実測図



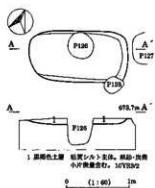
1 黒褐色土層 粘質シルト主体。磁器・陶器小片散見。10YR3/2

0 (1:600) 3m

第24図 D19号土坑実測図



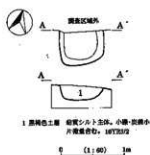
第25図 D18号土坑実測図



第26図 D20号土坑実測図



第27図 D21号土坑実測図



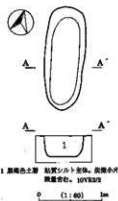
第28図 D23号土坑実測図



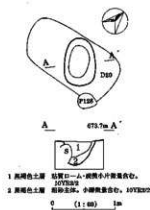
第29図 D24号土坑実測図



第30図 D25号土坑実測図



第31図 D22号土坑実測図



第32図 D26号土坑実測図



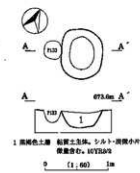
第33図 D28号土坑実測図



第34図 D27号土坑実測図



第35図 D29号土坑実測図

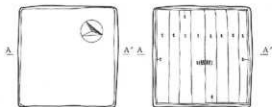


第36図 D30号土坑実測図

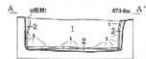


1 圆形土窟 直径2.00米，高0.735米，
用角砾土堆筑而成。
107330-0

第37图 D31号土坑实测图



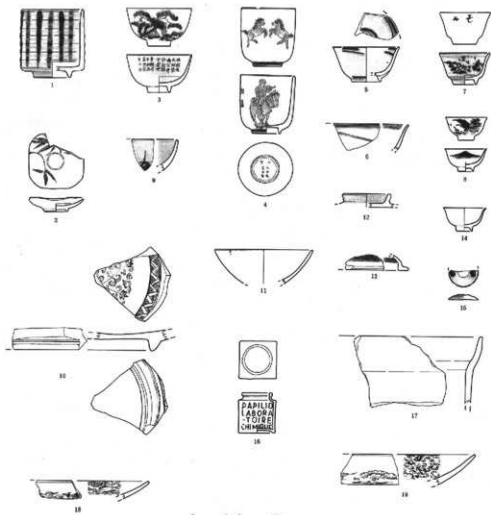
1 特殊土窟 土高约1.5米，
直径1.000米，用角砾土堆筑而成。
107330-0



2 圆形土窟 直径1.000米，
土高约1.5米，用角砾土堆筑而成。
107330-0

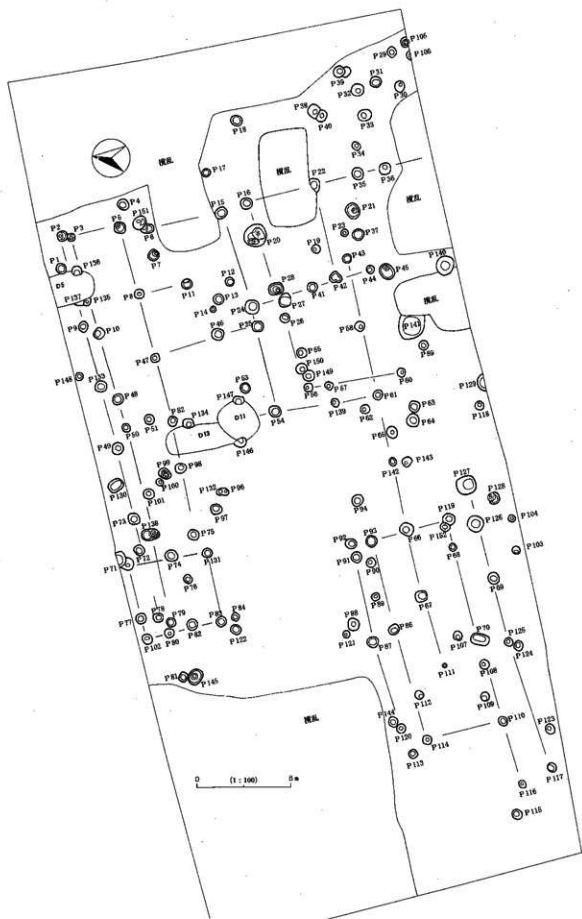
0 1:100 3m

第38图 T1号特殊土窟实测图



0 1:10 10cm

第39图 出土遗物实测图



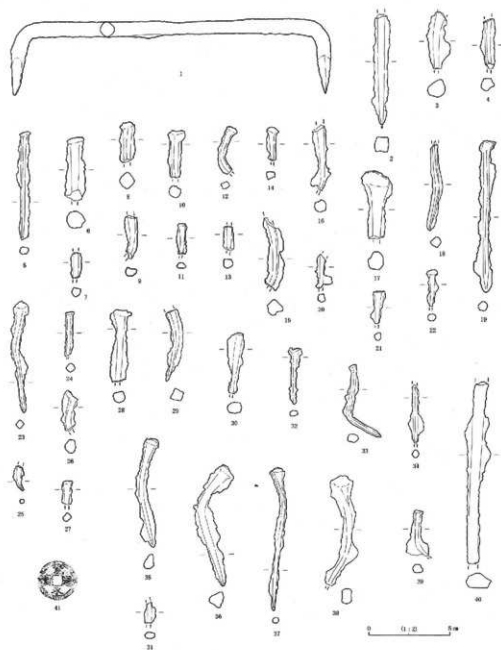
第40图 柱穴柱实测图

第2表 柱穴址一覧表

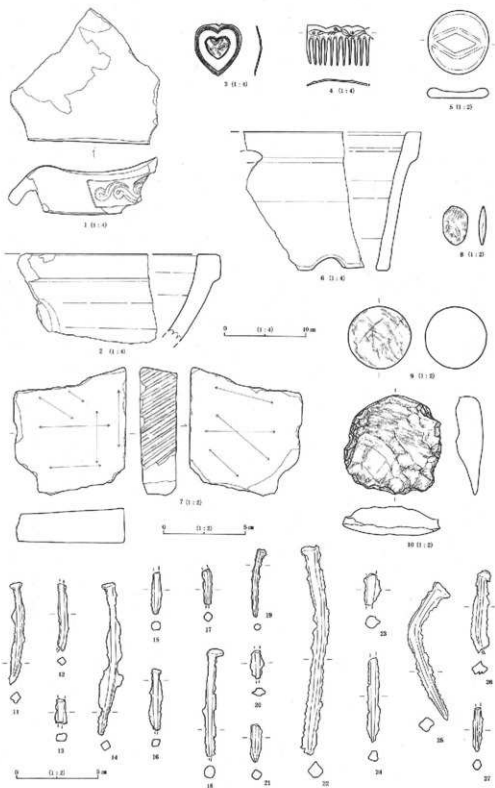
() は現存規模

遺構名	規模 (cm)	深度 (cm)	遺構名	規模 (cm)	深度 (cm)
P1	28×26	10	P77	25×24	15
P2	26×28	18	P78	25×21	20
P3	21×21	19	P79	23×22	9
P4	30×28	18.5	P80	25×25	7.5
P5	32×29	16	P81	26×23	14
P6	(34) ×22	9.5	P82	32×30	11
P7	27×28	20	P83	28×28	12
P8	26×24	24	P84	22×20	12
P9	25×24	7.5	P85		
P10	28×29	31	P86	27×25	22
P11	28×27	21.5	P87	30×30	22
P12	23×24	11.5	P88	32×30	34
P13	24×28	18.5	P89	20×18	22.5
P14	15×15	17	P90	25×24	24.5
P15	32×30	22.5	P91	28×28	31.5
P16	30×29	20.5	P92	30×28	34.5
P17	22×22	22	P93	30×30	29
P18	33×29	34	P94	33×30	25.5
P19	22×24	9	P95		
P20	64×58	38	P96	(18) ×18	13
P21	37×40	14.5	P97	29×26	12
P22	31× (39)	25.5	P98	31×28	18
P23	20×19	7	P99	32×25	15
P24	29×28	23.5	P100	18×18	13.5
P25	30×28	15	P101	28×28	15
P26	27×24	20	P102	30×26	17.5
P27	34×35	48	P103	22×21	18
P28	36×31	33.5	P104	18×18	9
P29	26×24	16	P105	26× (20)	10
P30	28×28	36	P106	26× (12)	26
P31	33×28	29	P107	26×23	10.5
P32	36×34	34	P108	24×23	11.5
P33	39×31	41	P109	22×22	26.5
P34	24×22	28	P110	24×24	18
P35	34×34	27.5	P111	12×10	2
P36	33×31	39.5	P112	23×21	18
P37	32×29	20.5	P113	23×22	7.5
P38	34× (32)	21	P114	24×24	20.5
P39	48×32	46	P115	26×25	14
P40	32× (24)	23.5	P116	20×20	10.5
P41	24×22	26	P117	22×21	2.5
P42	34×29	17	P118	24×22	26.5
P43	23×22	17	P119	32× (26)	16.5
P44	22×20	10.5	P120	24×24	13.5
P45	36×40	29.5	P121	16×17	15
P46	32×29	15.5	P122	27×25	10
P47	24×22	16	P123	28×24	17
P48	29×28	17.5	P124	27×26	28.5
P49	29×33	15	P125	23×22	12.5
P50	22×24	14	P126	42×42	38.5
P51	27×27	20	P127	51×49	24
P52	28×24	15	P128	31×30	24
P53	28×27	14	P129	(40) × (20)	5.5
P54	30×29	8.5	P130	42×34	19
P55	27×25	10.5	P131	26×26	26.5
P56	24×22	20	P132	17× (16)	6.5
P57	22×22	10	P133	30×30	21.5
P58	26×26	10.5	P134	30× (26)	16.5
P59	25×25	6	P135	(40) × (16)	25
P60	22×22	6	P136	29× (26)	19.5
P61	26×25	13	P137		
P62	24×24	25	P138	47×28	28.5
P63	33×31	14.5	P139	22×21	8
P64	36×35	22	P140	46×46	22
P65	31×28	25.5	P141	68× (64)	26
P66	36×34	31	P142	21×20	15
P67	33×32	32.5	P143	28×27	28
P68	19×18	17.5	P144	26×24	12
P69	34×29	27.5	P145	44×36	27
P70	50×34	26	P146	33× (25)	16
P71	(44) ×30	17.5	P147	30× (25)	14

遺物名	長横 (cm)	深度 (cm)	遺物名	長横 (cm)	深度 (cm)
P72	27×26	50	P148	23×21	30.5
P73	28×23	15	P149	30×28	27
P74	37×32	15.5	P150	29×28	24
P75	29×28	23	P151	36×(28)	23
P76	34×23	10	P152	26×(24)	23.5



第41圖 金屬製品実測図・拓影図



第42图 出土物实图例

第3表 出土陶磁器等一覧表

挿図番号	出土位置	時代	種類	器種	特徴
39-1	T 1	近代	瀬戸系磁器	ぐい呑	色絵
39-2	T 1	近代	瀬戸系磁器	小皿	
39-3	T 1	近代	九谷系磁器	ぐい呑	墨絵
39-4	P 18	近代以降	九谷系磁器	ぐい呑	近代、色絵
39-5	複乱層	江戸後期	肥前系磁器	蓋	青磁、39-6と同一個体
39-6	P 13	江戸後期	肥前系磁器	蓋	青磁、39-5と同一個体
39-7	T 1	近代	肥前系磁器	蓋	青磁、色絵
39-8	T 1	江戸末以降	瀬戸系磁器	蓋	染付
39-9	D 1	江戸後期	肥前系磁器	小鍋	染付
39-10	T 1	近代	磁器	大皿	39-18と同一個体
39-11	P 141	江戸後期	磁器	碗	染入
39-12	複乱層	近代	陶器	釜	鉄軸
39-13	T 1	近代	陶器	陶鍋蓋	鉄軸
39-14	T 1	近代以降	瀬戸系磁器	蓋	
39-15	D 4	江戸後期	磁器	小蓋	色絵
39-16	複乱層	近代	陶器	甕	
39-17	検出面	中世前半		土織	
39-18	T 1	近代	磁器	入皿	39-10と同一個体
39-19	検出面	江戸後期	肥前系磁器	皿	染付

第4表 出土石器・金属製品他一覧表

挿図番号	出土位置	器種	材質	特徴
41-1	T 1	鋸	鉄	表面火熱を受ける
41-2	D 11	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-3	D 22	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-4	D 31	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-5	D 27	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-6	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-7	P 20	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-8	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-9	P 20	角釘	鉄	断面方形、頭部欠損
41-10	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-11	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-12	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-13	P 20	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-14	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-15	P 20	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-16	P 20	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-17	P 30	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-18	P 39	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-19	P 98	角釘	鉄	断面方形
41-20	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、頭部欠損
41-21	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-22	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-23	P 30	角釘	鉄	断面方形
41-24	P 141	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-25	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、頭部欠損
41-26	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-27	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-28	表面探集	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-29	表面探集	角釘	鉄	断面方形、頭部欠損
41-30	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-31	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-32	近世整地層	角釘	鉄	断面方形
41-33	近世整地層	角釘	鉄	断面方形
41-34	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、頭部、端部欠損
41-35	近世整地層	角釘	鉄	断面方形
41-36	近世整地層	角釘	鉄	断面方形
41-37	近世整地層	角釘	鉄	断面方形
41-38	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-39	近世整地層	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
41-40	近世整地層	角釘?	鉄	断面方形、両端部欠損
41-41	D 19	竈火通宝	銅	古寛永、1637年以降、混入少

探図番号	出土位置	器 種	材 質	特 徴
42-1	T 1	軒瓦		
42-2	T 1	火鉢	瓦質	近代。ロクロ成形
42-3	攪乱層	ブローチ	象牙	近代以降
42-4	攪乱層	櫛	亀甲	近代以降
42-5	T 1	壺	ガラス	近代以降
42-6	T 1	不明	瓦質	近代。ロクロ成形
42-7	T 1	砥石	流紋岩	欠損後も使用
42-8	D 5	磨石	硬質砂岩	表面に使用擦過痕
42-9	T 1	不明	流紋岩	
42-10	P 20	スクレパー	硬質砂岩	刃部に使用磨耗痕。中央に着脱痕。石奔の可能性大
42-11	D 1	角釘	鉄	断面方形
42-12	D 1	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
42-13	D 6	角釘	鉄	断面方形、頸部・端部欠損
42-14	D 2	角釘	鉄	断面方形
42-15	D 6	角釘	鉄	断面方形、頸部欠損
42-16	D 7	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
42-17	D 6	角釘	鉄	断面方形、頸部・端部欠損
42-18	D 7	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
42-19	D 7	角釘	鉄	断面方形
42-20	D 8	角釘	鉄	断面方形、頸部・端部欠損
42-21	D 8	角釘	鉄	断面方形、頸部欠損
42-22	D 11	角釘	鉄	断面方形
42-23	D 8	角釘	鉄	断面方形、頸部・端部欠損
42-24	D 11	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
42-25	D 11	角釘	鉄	断面方形
42-26	D 11	角釘	鉄	断面方形、端部欠損
42-27	D 11	角釘	鉄	断面方形、頸部欠損

第VI章 まとめ

野沢館跡Ⅲは、当初、中世の園池や主郭に近接しているため、密度の高い建物址が予想された。しかし、近世以降の整地等により、かなり削平・攪乱を受けていた。そのような条件下において検出された中世の遺構は、今後の野沢館跡研究上、大変貴重である。また駐車場部分を試掘調査した結果、今回調査地点よりも中世の遺構密度は高く、比較的良好な状態で残存していた。この場所を保存するにあたり、野澤潤子氏の手を煩わせたことに感謝を表明する。

今回の調査は、遺物が少なく、中世の遺物を検出した遺構は以下のとおりである。

D 2 (常滑甕)、D 5 (土鍋)、D 7 (瀬戸灰釉)、D 9 (瀬戸)、D 12 (白磁)、D 15 (土師質土器)

D 19 (土鍋)、D 22 (白磁)、D 24 (土師質土器)、D 28 (青磁)、P 3 (土鍋)、P 35 (土鍋)

P 45 (土師質土器)、P 71 (土鍋)、P 96 (土鍋)、P 104 (瀬戸灰釉)、P 141 (土鍋・土師質土器)

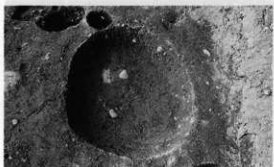
また近世の可能性が高い遺構は、D 8・D 11・D 21・D 29である。T 1は近代の地下室的な構造物と考えられる。柱穴址は、いくつかのまとまりに分けることが可能で、おそらく中世期であろう建物址や構列が想定された。横列や建物址は軸方向がほぼ一定しており、軸を異にするような重複は見られない。また現在の地割の軸方向と一致しており、現在の野沢の町割が、中世より大きな変更なく続いていることを証明する貴重な調査となった。



D 1号土坑



D 7号土坑



D 2号土坑



D 8号土坑



D 3号土坑



D 9号土坑



D 4号土坑



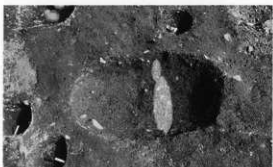
D 11号土坑



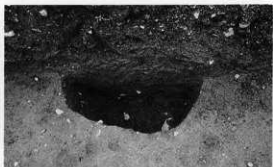
D 5号土坑



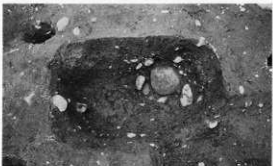
D14号土坑



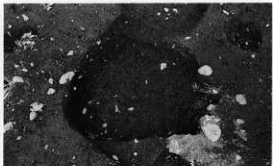
D 6号土坑



D15号土坑



D10号土坑



D17号土坑



D16号土坑



D12号土坑



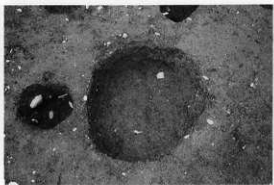
D13号土坑



D22号土坑



D18号土坑



D19号土坑



D20号土坑



D23号土坑



D24号土坑



D25号土坑



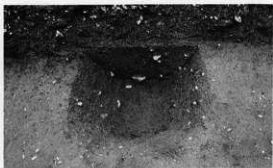
D27号土坑



D28号土坑



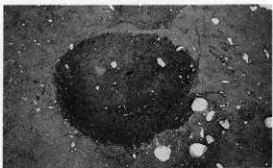
D30号土坑



D28号土坑



D31号土坑



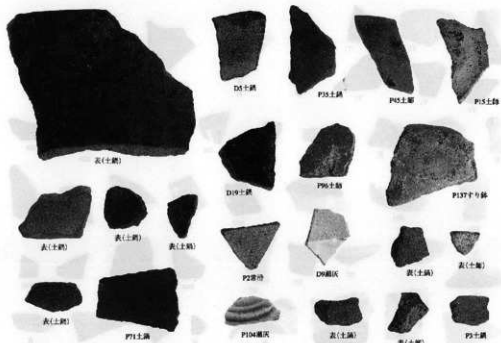
D29号土坑



T1号特殊遺構 壁・床材撤出状況(東方より)



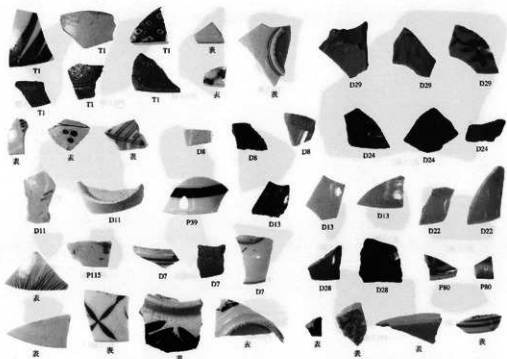
T1号特殊遺構 完掘状況(東方より)



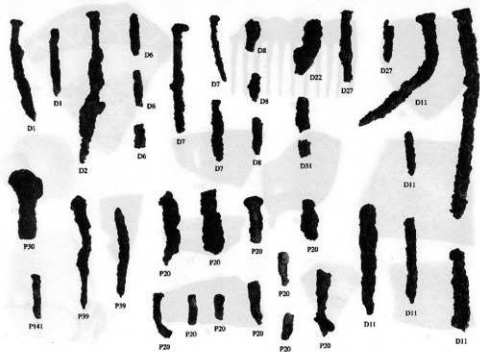
各遺物出土中世土器・陶器 (1:2)「土師」は土師質土器・「瀬灰」は瀬戸系灰釉陶器・「表」は検出面表面採集の略



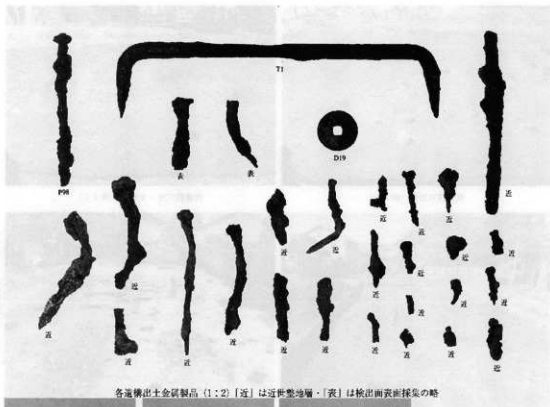
各遺物出土近世・近代遺物 (1:2)「表」は検出面表面採集の略



各遺構出土近世・近代陶磁器（未実測 1：2）「裏」は検出面表面採集の略



各遺構出土鉄製品（1：2）



39-4



39-3



39-1



39-8



39-7



39-16



調査風景



調査区全景 (由西より)



中央土坑群 (南より)



東無柱穴址群 (南より)



西無柱穴址・土坑群 (南より)



調査区全景 (西方より)



調査区全景 (東方より)



調査区全景 (西方より)



調査区全景 (西方より)



調査区全景 (南東より)



長野県史跡伴野城主跡 北側の堀・土塁

佐久市埋蔵文化財報告書

- 第1集～第50集 省略
- 第51集 『寺中遺跡・中屋敷遺跡Ⅱ』
- 第52集 『坪の内遺跡』
- 第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
- 第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』
- 第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
- 第56集 『聖原遺跡Ⅹ』
- 第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
- 第58集 『下穴虫遺跡Ⅰ』
- 第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
- 第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
- 第61集 『割地遺跡』
- 第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
- 第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
- 第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
- 第65集 『中宿遺跡』
- 第66集 『中西の久保遺跡Ⅱ、仲田遺跡、寺畑遺跡』
- 第67集 『供養塚遺跡』
- 第68集 『前藤部遺跡』
- 第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
- 第70集 『観音堂遺跡』
- 第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
- 第72集 『市道遺跡Ⅱ』
- 第73集 『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』
- 第74集 『五里田遺跡』
- 第75集 『八風山・五斗代』
- 第76集 『南近津遺跡』
- 第77集 『番屋前遺跡Ⅲ』
- 第78集 『蛇塚遺跡・蛇塚古墳群』
- 第79集 『四ッ塚遺跡Ⅰ』
- 第80集 『四ッ塚遺跡Ⅱ』
- 第81集 『薬師寺遺跡』
- 第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』
- 第83集 『下型端遺跡Ⅳ』
- 第84集 『榛名平遺跡』
- 第85集 『柳堂遺跡』
- 第86集 『市内遺跡発掘調査報告書1999』
- 第87集 『宮添遺跡』
- 第88集 『下曾根遺跡』
- 第89集 『川原端遺跡』
- 第90集 『架の木遺跡』
- 第91集 『西一本柳・中長塚・松ノ木遺跡』
- 第92集 『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』
- 第93集 『入高山遺跡』
- 第94集 『聖石遺跡』
- 第95集 『市内遺跡発掘調査報告書2000』
- 第96集 『上木戸遺跡』
- 第97集 『久福添遺跡』
- 第98集 『深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』
- 第99集 『中道遺跡Ⅱ』
- 第100集 『野沢館跡Ⅲ』

佐久市埋蔵文化財報告書 第100集

野沢館跡Ⅲ

2002年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006長野県佐久市大字志賀5953

印刷所 株式会社 中信社
